

# 『佛典漢語詞典』の構想

辛嶋靜志

(創價大學國際佛教學高等研究所、東京)

漢譯佛典を言語面から子細に研究すれば、それは漢語史、とりわけ漢語口語史の重要な資料としてのみならず、漢譯に比べ成立の遅い梵語佛典からだけでは分からない佛典の成立・発展の問題に手掛かりを与える貴重な資料としての面貌を示す。特に、後漢・魏晉代の漢譯佛典は、梵語寫本(いくつかの例外を除けば、古くて六、七世紀、殆どは十一世紀以降に書寫)よりも遙かに古く、大乘仏教の成立の問題を考える上でも重要な資料と考えられているが、漢語・梵語・チベット語佛典の正確な讀解に基づく本格的な研究は始まったばかりである。

しかし、漢譯佛典に見える特殊なあるいは口語的な語彙・語法が漢語辭典や文法書に引かれるのは稀で、このことが漢譯佛典を正確に讀むことを困難にしている。最近、中國學の方面から漢譯佛典の語彙・語法を研究する機運が高まり、いくつかの優れた研究業績も發表されている。しかし、中國學からの研究は概して、用例を集め意味を歸納的に明らかにするか、外典(佛典以外の文獻)での類似の用法との比較に終始しており、漢譯佛典の特徴が生かされていない。すなわち、漢譯佛典は"翻譯"であり、梵語・パーリ語・チベット語などのテキスト、あるいは異なる翻譯者の手になる"異譯"との比較對照が可能であるという点である。漢譯佛典の難解な語法・語彙も梵語などのテキストあるいは異譯と比較することでその意味がより定かになったり、今まで見えなかったものが見えてくる場合も少なくないのである。

この様な學問的趨勢を鑑みるに、中國學とインド學・佛教學の兩方の成果を踏まえた、一つ一つの初期漢譯佛典ごとの精細な語彙・語法研究さらにそれに基づく譯者別の語彙・語法研究が火急に求められていると考えられる。

筆者はこの方向の研究の手始めとして、すでに『正法華經詞典』(1998)・『妙法蓮華經詞典』(2001)を出版し、目下は、來年度の出版をめざして『道行般若經詞典』・『道行般若經校釋』を執筆している。また中國の漢語史研究者及び歐米の佛教學者と共同で、安世高譯を中心とした『東漢代非大乘經典詞典及校釋』の三、四年内の出版を計畫している。このユニークな共同作業がうまく行けば、同様の方法で、さらに支婁迦讖譯、支謙譯など譯者別の詞典とテキストを出版して行こうと考えている。そして最終的にはこれらをまとめて、漢語佛典を材料にした『佛典漢語詞典』の形にまとめたいと思う。

辛嶋靜志 KARASHIMA Seishi

1957年生

創價大學國際佛教學高等研究所教授 文學博士(北京大學)

主要著作 *A Glossary of Dharmarakṣa's Translation of the Lotus Sutra. A Glossary of Kumārajīva's Translation of the Lotus Sutra.* 『長阿含經』の原語の研究—音寫語分析を中心として』 *The Textual Study of the Chinese Versions of the Saddharmapuṇḍarikasūtra* 「漢譯佛典の漢語と音寫語の問題」ほか多数